

# 第44回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査員講評



図画部門の審査風景



作文部門の審査風景

## 審査員講評 / 作文部門



青森市立筒井小学校  
前校長 長崎 雅仁

今年も、多くの応募作品を読ませていただくことができました。家族への思いやりにあふれた作品や、米作りに携わっている人々への感謝の気持ちが伝わってくる作品がたくさんあり、審査する私たちも心が温かくなりました。

また、今年、昨今の米の価格高騰や備蓄米の話題を取り上げた作品も多く見られました。ごはん・お米が、わたしたち日本人の食の中核をなしているものであること、さらには社会の動きや仕組みに目を向けるきっかけとなっていることをいっそう強く感じました。



青森市立泉川小学校  
校長 原子 雄治

お米を通し、自分を取り巻く方々への感謝が綴られた作品が多く、心に残った作品には、①思いを素直に表現 ②感覚を独自の言葉で表現 ③目の前に場面が浮かんでくる会話文(方言) ④汗水垂らした自分の体験を詳しく描写 ⑤将来について考えたこと ⑥社会情勢について調べたこと などが見られました。今年度の特徴として、中学生ともなると「令和の米騒動」に自分の考えをもって書いている子も多く、また、どの学年でも語彙が豊富で、こちらが驚くような表現が増えてきました。

作文は自分の感動を伝えるものですから、自分の心が大きく動いた場面を中心に、特に上記の①～⑤を意識して、組み立てることが大切です。



日本国語教育学会 理事  
青森明の星中学・高等学校 副校長  
高橋 光夫

昨年度、青森県知事賞を受賞した、青森市立浦町中学校2年(当時)の若宮遙希君が、全国日本一の内閣総理大臣賞の快挙に輝きました。誠にめでたうございます。

今年度、過去5年間で最多数の作品応募でした。特に第3部における増加が目立ち、改めて各先生方の御努力に感謝申し上げます。

昨年度に増して、酷暑、渇水、大雨などの異常気象に見舞われ、米不足、備蓄米など、「米」が注目される年が続いています。

各部門、素敵な作品に溢れています。米やおにぎりのおいしさだけではなく、いわゆるサイドストーリーを絡ませた秀逸な作品が多くなっています。学校行事「おむすびデー」とおむすび作りを見事に組み合わせた作品、祖父をモチーフに世界市民の1人として、農業、米作りに思いを馳せた壮大な作品など、ごはん、お米から社会、世界への広がりが顕著となりつつあります。これからの作品作り、応募、大いに期待しています。



東奥日報社 生活文化部  
部長 秋元 宏宣

審査員を務めるのは今年で3回目となりました。今回もそうですが、みなさんの作品から家族と食卓を囲む喜びやお米づくりの大変さが伝わり、日本人にとっていかにお米が大切なものなのかを感銘しています。

今年目を引いたのは農業を取り巻く社会情勢をテーマにした作品が多かったことです。初めて食べた備蓄米、フードロス問題、猛暑と人手不足による米作りの不安。いずれも日本の将来に関わる重要な問題ばかりで、みなさんの関心の高さが伺えました。

昨年は青森県から最高賞の内閣総理大臣賞が誕生し、レベルの高さを示すことができました。今年も昨年とひけを取らない作品が集まり、今後の飛躍を期待したいと思います。

## 審査員講評 / 図画部門



青森県児童美術研究会  
理事 工藤 玲子

今年も「お米・ごはんの大切さ」を独自の構図、彩色の工夫で心を込めて表現した多くの作品に出会いました。1部門の作品は、楽しく、思いのまま、伸び伸びとした表現が多く、2部門の作品は、画面構成を工夫した個性的な表現が見られました。3部門の作品は、人物、田園風景などに優れた描写力を感じました。各部門の中から特に優れている作品として、次の三賞を決定しました。

●青森県知事賞 八戸市立是川小学校 6年 中居 凜鳳「播種機の手伝いをしたよ」  
播種機を中心に画面構成を工夫して、主題を明確に表現した素晴らしい作品です。播種機のハンドルを注意深く回して手伝いをしている様子を丁寧に描いています。播種機は立体的に描いて、苗箱に無数の種が蒔かれていく一連の作業の流れを、正確に細部にわたって表現しています。彩色は、鮮やかな赤色の播種機とその下に敷いている青色のシートが効果的です。ビニールハウスや2人の服装の色合いなどもよく考えて混色、重色、濃淡を工夫しています。

●青森県教育委員会教育長賞 青森市立造道小学校 1年 矢本 凌久「ごはん おいしいなあ」  
画面中央に白いご飯がいっぱい入った茶碗が大きく描かれた印象的な作品です。身体より大きく描いた茶碗に手を添えて笑顔でご飯を食べている凌久さんの幸せ一杯の気持ちが伝わってきます。大きく開けた口、目や鼻、髪型などの特徴をとらえて表現しています。また茶碗に届くまで伸ばして描いた右手の表現は、凌久さんならではの表現です。おかずのお肉、野菜、ミニトマト、味噌汁なども丁寧に描き、色彩豊かです。こげ茶色のテーブルが白いご飯とおかずをより引き立てています。

●青森県農協中央会会長賞 青森市立浪打中学校 2年 濱田 明来「今も昔も大好きな味」  
明来さんならではの発想、画面構成、鮮やかな色彩が目を引き素晴らしい作品です。おにぎりを美味しく食べるように食べている小さい頃の写真を画面左上に描いて数年の経過を効果的に表現しています。弟と一緒に美味しいご飯を頂いている微笑ましい作品で、2人の持っている同じ茶碗は外側が黒色、内側が赤色で、その中に入っている白いご飯が一層際立って見えます。美味しく食べている二人の顔の表情、茶碗、箸を持つ手、服の質感、しわなど細部にわたって丁寧に描いた力作です。



青森児童美術研究会  
理事 中谷 則子

今年も「ごはん・お米とわたし」をテーマにして、感動したことを頑張って表現した数々の絵に出会うことができました。子ども達の頑張りと先生方の熱心な指導に敬意を表します。

ごはんに関わる題材は、とても数が多く感心させられました。ごはんを食べることのできる幸せが上手に表現されていました。米作りに関わる題材は、多くはなかったのですが収穫への期待や感謝の気持ちが伝わってきました。

明るく楽しく心豊かな絵を今後も期待します。

●青森県知事賞 八戸市立是川小学校 6年 中居 凜鳳 「播種機の手伝いをしたよ」

中央に配置した大きな赤色の播種機を少し斜めにしたことで実際に動いているように見えます。体全体を使って作業する凜鳳さんの頑張った様子がよく表されています。色数を少なくして濃淡を工夫し主題を際立たせています。ビニルハウスの中だけでなく、外の景色も取り入れることで、回りの様子や広がりを見せているのが素晴らしいです。

●青森県教育委員会教育長賞 青森市立造道小学校 1年 矢本 凌久 「ごはん おいしいなあ」

画面真ん中の緑色の大きなごはん茶碗と山盛りの真っ白なごはんに目を引き付けられました。黒いてんてんがあるから一段とおいしそうに見えます。茶碗をしっかりと持ち、はしを上手に使っておいしそうに食べている凌久さんの笑顔がとても素敵です。おかずの一つ一つやみそ汁の具も色の使い方を工夫しながらとても丁寧に描いていて感心しました。

●青森県農協中央会会長賞 青森市立浪打中学校 2年 濱田 明来 「今も昔も大好きな味」

題名と左上の写真にこれまでにない新鮮さを感じました。幼い時のおにぎりをおいしそうにほおばっている写真は、とても効果的です。ご飯を食べている二人の顔の表情、茶碗や箸を持っている手の表し方、服のしわや影の描き方が素晴らしいです。ご飯が真っ白でおいしく見えるように工夫しています。色数を少なくおさえ、髪の毛や茶碗などで黒色を目立たせているので引き締まった絵になりました。



青森児童美術研究会  
理事 佐藤 理子

応募点数が昨年よりも少なかったものの、応募校数は増えました。作品作りを通してごはんやお米との関わりに思いを寄せることができた皆さんは貴重な機会を得たと思います。楽しいごはんの思い出を表現した絵や、お米を大切にしている思いが溢れた米作りの絵など、思いが素直に表現されていました。今後も、ごはんやお米との関わりに思いを寄せ、美味しいごはんを食べることのできる幸せを感じながら描かれていくことを願っています。

●青森県知事賞 八戸市立是川小学校 6年 中居 凜鳳 「播種機の手伝いをしたよ」

画面中央に人物と播種機がしっかりと表現され、描きたかったことがよく伝わってきます。播種機の手伝いをする真剣な表情から、大事な作業を一生懸命に取り組もうとする気持ちが強く感じられます。また、ビニールハウスや周りの景色も丁寧に描写され、手伝いをした場所の様子もよく分かります。大事な物がよく見えるような色の工夫や丁寧な色彩も見事です。手伝いにも表現にも誠実さが感じられる爽やかな作品です。

●青森県教育委員会教育長賞 青森市立造道小学校 1年 矢本 凌久 「ごはん おいしいなあ」

題名のとおりに、おいしいごはんを食べる喜びが素直に表現された明るい絵です。白いごはんに合いそうなおみそ汁もおかずも丁寧に描かれ、白いごはんを引き立たせています。ミニトマトの赤、コップの青、服の黄色など、明るい色を上手に使ってしっかりと着色したことで画面も引きしまって見えます。クレヨンと水彩絵の具を用い頑張って描き上げた立派な作品です。

●青森県農協中央会会長賞 青森市立浪打中学校 2年 濱田 明来 「今も昔も大好きな味」

巧みな人物描写に引きつけられる作品です。器の持ち方、箸の握り方、味わっている顔の表情など、二人の人物の手や目の動きに変化をつけて描かれています。細かな観察力と高い表現力に感心しました。副菜などは描かず、黒塗りの器にお米の粒を意識しながら丁寧に表現したことで、ごはんの白さや美しさ、そして明来さんの思いが伝わってきます。